

|         |                              |            |          |
|---------|------------------------------|------------|----------|
| 氏名      | 藤 沢 昌 彦                      |            |          |
| 学位の種類   | 医 学 博 士                      |            |          |
| 学位授与番号  | 乙 第 3 7 0 号                  |            |          |
| 学位授与の日付 | 昭和44年 6 月30日                 |            |          |
| 学位授与の要件 | 博士の学位論文提出者<br>(学位規則第5条第2項該当) |            |          |
| 学位論文題目  | 外科侵襲の網内系代謝機能に及ぼす影響に関する実験的研究  |            |          |
| 論文審査委員  | 教授 田 中 早 苗                   | 教授 砂 田 輝 武 | 教授 妹尾左知丸 |

### 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

クリチルリチン  $^{59}\text{Fe}$ コロイド法による各種麻酔群の網内系機能の動態は、無麻酔では急速に鉄コロイドは貪食され、細胞内でも効果的にヘモジデリンからフェリチンに、ついでHb合成に活発に動き貯蔵鉄は少ないが、麻酔下にあつては網内系貪食機能は抑制をうけ同時に代謝機能の結果としてあらわれる合成機能も抑制をうけ、麻酔深度により影響はさらに増大しフェリチン、ヘモジデリン比が減少し抑留現象が起る(第1編)、各種手術群において単純開腹では貪食能およびHb合成能は軽い反応亢進を示すが、手術侵襲増大とともに貪食、合成ともに機能抑制を認め、ヘモジデリンブロックが発生する。脾部摘では残脾に機能代償が起り、肝の代償もみるべきものがあるが摘除脾量にしたがい機能低下が認められ、G.  $^{59}\text{Fe}$ . C. 法が網内系機能検査法として優れた手法であり(第2編)、細部においてG.  $^{59}\text{Fe}$ . C. 法とは多少異なる結果をえたが、リノール酸  $^{14}\text{C}$ エマルジョン、脂肪乳剤ファトゲンも網内系機能検査法として賞用さるべきことが判明した(第3編)

(岡山医学会雑誌：第79巻3・4号 昭和42年4月掲載)

## 論文審査の結果の要旨

本研究は外科的侵襲を生体に加えた場合、網内系機能が貪食能という面だけではなく、代謝機能面においてもどのような影響をうけるかということについて、各種の麻酔薬、各種の手段を加えて検索した研究である。即ち手術時における個体の生命力というものを網内系という面を通してみた仕事で、こうした面における重要な知見を得た価値ある業績と認める。

よって本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。